

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 5 (2023) 年 4 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)URL <https://jha-e.jp/>

受付時間 平日 10:00~17:00

発行日 毎月 1 日

コロナ禍から得たもの

阿南 誠

専門課程小委員会 委員長

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療情報学科 学科長 特任教授

本稿執筆時点では、本年度の診療情報管理士認定試験の結果は明らかになっていない。ご承知のとおり、3年間にわたる新型コロナによる未曾有の禍は、微に入り細に入り我々の社会に大きな影響を与えた。3年の時間のために失ったものが大きい反面、在宅ワークやオンライン会議、Eラーニング等は、予想もしなかったような長足の進歩を遂げました。筆者の大学でも特に大学院生はいつの間にか、全員が社会人（それもそれなりの年齢の）となり、ほぼ県外の学生ばかりとなっています。これはオンライン授業が後押しをした結果と考えています。一方で高校を卒業して新しい学生生活に馴染もうとした学部学生は、他人と接する機会が極端に減少し、疎外感やコミュニケーション不足に悩まされるという気の毒な状況も発生しています。このような時期に、本通信教育も完全にEラーニング化され、導入前後の学習効果の乖離については気になるところでしたが、それは杞憂であり、知る限りでは、対面スクーリングの時代よりも受講生への学習効果は上がっているようです。恐らくは、通信教育受講生のほぼ全てが社会人であることから、限られた時間の中で反復した学習に適していたと推察します。いずれにしても、コロナにより本通信教育の手段も劇的な変化を求められた時、正にその時代の変換点に接することが出来たことは、受講生はもちろん、我々講師（ビデオ教材作成者）も貴重な経験と、正に時代の目撃者、体験者として一生忘れられない経験を得たのではないかと考えています。

コロナ禍の下、急速に議論が進んだ遠隔診療等があり、そして、これからはマイナンバーカードの普及に併せてPHRへの活用なども促進されていくでしょう。さらに、コロナ対応以前に、AIやビッグデータの活用等にも弾みがつくのではないかと考えています。統一されたIDと確実な認証方法が組み合わさる時代が到来すれば、PHRはもちろん、地域連携、受給資格の確認、最終的には患者ID登録や受診時の定型的な登録等の苦労は解消していくでしょう。実際に国民的なIDがあるので医療機関における、いわゆる新患登録等の作業が消滅した国も存在します。我が国のICT導入や情報化が先進諸外国に遅れをとっているといわれて久しいですが、何事にも一致団結できる国民性は、一気に時代に追いつき追い越す力を秘めていると思っています。しかし、多方面で活用される医療データは、要求がシビアになっていけばいくほど、その精度改善が求められると共に扱う者の責任も大きくなっていくでしょう。これは診療情報管理先進国でも課題になっており、種々の意味でCDI(Clinical Documentation Improvement)を強力に進めなければなりません。そうしなければ、良好な医療機関の運営や医療の質改善は望みません。すなわち、診療情報を扱う診療情報管理士は未来に向けて、責任の重さや時代に対応することをしっかり意識しておく必要があります。一緒にコロナの次の時代に向けて考えてみませんか。